

「教室不足」「教員不足」解消に向けて 抜本的に支援学校新校整備を

看護師の定数外配置、老朽化した校舎・施設の改修 駅のホーム柵設置などを訴え

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

(支援教育課・施設財務課・保健体育課)

2月6日、大障教は支援教育課・施設財務課・保健体育課との課別交渉を実施しました。交渉には9分会16人が参加し、支援学校の新校整備について、トイレや教室などの施設設備の改修、看護師の定数外配置と待遇改善、駅のホーム柵設置を鉄道会社に働きかけることを求めました。

交渉での主なやりとりを紹介します。

トイレ、教室などの施設改修、設備修繕予算の増額、「教室不足」の解消を



あいさつする
荒谷書記長

「教室不足」により転用が繰り返され、教室内や廊下が車いすや医療的ケアの機器等で狭くなり支障があること、さらに老朽化した設備の危険な状態を訴え、改善を要求しました。また教員トイレの増設や手洗い設備の改善を要求しました。

施設財務課は、「学校の予算でまかなえないところは別途配当する。相談してほしい」と回答しました。

箕面支援分会からは、



光陽支援分会
佐々木さん

駅のホーム柵設置を鉄道会社に働きかけ、安全安心な移動の保障を



北視覚支援分会
山田さん

北視覚支援学校分会からは、特に学校最寄り駅の阪急上新庄駅のホームが狭く、視覚障害のある教職員や子どもにとって大変危険な実態があることを訴えました。東京都では官民連携でホームドア設置をすすめていることを紹介し、府教委とし

看護師の賃金や待遇改善、定数外配置や正規職員としての配置を



平野支援分会
杉本さん

化し、看護師しか対応でき

ないケアが増えてることや業務量が大幅に増加している実態を訴え、常勤看護

師を府独自で定数外配置し、

くわえて看護師を正規職員として配置することを強く

求めました。支援教育課は、

法定数内配置の義務付けを強く国へ要望する。看護師の業務改善については、各校の実情を聞きながら考えていかたい」と回答しまし



箕面支援分会
福川さん

書記局のひとりごと



長女が高校に入学したことが昨日のように感じていたが、その娘が今まさに大学受験真っ只中。もうひと踏ん張り家族全員で応援したい。

今の子どもたちは、インターネット等で検索した学校偏差値の情報を信じ込み、「良い学校」

「まあまあな学校」等ランク付けで学校を判断する傾向が強まっていることを娘の高校受験の時に感じた。大学受験も「多聞に漏れず」その傾向はさらに強まり、受験生ほどこの学校に行くのかが、

あたかも自分自身がランク付けされるかのような強迫観念にかられて過ごしており、私が高校生の頃とは比べ物にならない程の厳しい環境の中で生

きている。

アラフィフになつた今、ありきたりだが、「どこに行くのか」ではなく、「そこで自分が何をするのか」が大切であるとええ歳になつてつくづく思う。仕事に就いてからは、「学歴」ではなく、何よりも「ひととなり」やなあと実感する。今の娘はまだまだそのようにまで至らないが、娘の夢に必ずつながる力になる。将来ふと振り返つた時に、今の自分をきっと大いに褒めてあげられることだろう。娘と同じく、新たな進学・進路・生活に向かつてがんばる皆さんにも、どうかあたたかい春が訪れますように。

蛇足だが、長女の夢は「学校の先生」。同じ道を目指す娘の報告に喜ぶ私の横で小学2年生の次女が「じゃあ、ねえねえも帰り遅くなるやん!」と一言。次女の目に映る先生像に私自身の働き方を痛感させられた一場面であった(焦)。近い将来、娘と教育談義を交わす日を楽しみに元気で健康に働き続けよう。

「発達がわかれば、子どもが見えてくる③」 ～発達の原動力は子どもの中にある～



熱心に話に聞き入る参加者

4歳頃の子どもの発達について
は、自らを励まし、コントロール
しようとする「自制心」が育つて
くる。そして、「自制心」が育つて
くること、視点を自分の外に移す
力が育つてくること、変わりゆく
自分を感じられるようになつてく
ることなど、わかりやすく説明さ
れました。

光り輝く4歳児になりゆく「自制心」の力

4歳頃の子どもの発達について
は、自らを励まし、コントロール
しようとする「自制心」が育つて
くること、視点を自分の外に移す
力が育つてくること、変わりゆく
自分を感じられるようになつてく
ることなど、わかりやすく説明さ
れました。

最初に不登校の問題にふれ、今、
不登校の子どもたちが34万人を
超え、学校に行きにくくなつてい
ることにされました。そんな中だ
からこそ、学校=楽しいものと思
えるように楽しい実践を作つてい
くことが大事であること、子ども
は楽しいと脳が活性化され身につ
いていきやすいことを話されまし
た。そして、子どもの発達を支え
るものとして、共感的な子ども理
解と発達的な子ども理解の両方が
必要なこと、安心できる環境（人・
場所・雰囲気・取り組みなど）が
大切であると強調しました。ま
だまだ心の発達は幼児期なのに
「大人扱い」や、甘えることがい
けないとすることも多いかもしれ
ないが、「大人扱い」したから大
人になるわけではない。思春期に
入つて体も変化してくるが、心や
自我の育ちはまだまだといったこ
ともあり、本人も苦しんでいる。
本人の気持ちやプライドを尊重す
ることが大切であると話されました。

最後に30分ほど感想や悩
み出し合つて交流しました。

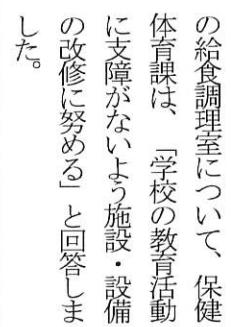
3回の連続講座では、毎回

寝屋川支援学校分会
山岡さん

寝屋川支援学校分会
山岡さん

枚方支援学校からは、創立
5～6歳頃の子どもの発達の特
徴として、「心の中ですじ道を立
て考え、表現する力」が育つてく
ること、「中間的な世界」がわ
かること、視点を自分の外に移す
力が育つてくること、変わりゆく
自分を感じられるようになつてく
ることなど、わかりやすく説明さ
れました。

などが出されました。

枚方支援学校分会
林さん

最後に30分ほど感想や悩
み出し合つて交流しました。

に語り合えるような取り組み
を企画していきます。

つガーデンにて開催されました。発達について基礎から学ぼうと
連続の発達学習会を企画し、今回が3回目（最終回）でした。
講師は、宮本郷子さん（龍谷大学社会医学専攻准教授・元大阪府内小
学校教諭）でした。28名が参加し、ともに学び合いました。

どの子にとっても「楽しい！」と思える学校を

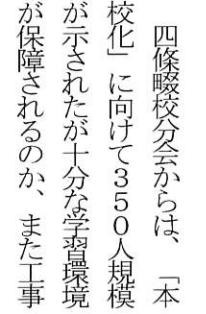
大障教連続講座「第3回発達学習会」が、2月15日（土）たか
だが開催されました。発達について基礎から学ぼうと

連続の発達学習会を企画し、今回が3回目（最終回）でした。

講師は、宮本郷子さん（龍谷大学社会医学専攻准教授・元大阪府内小
学校教諭）でした。28名が参加し、ともに学び合いました。

「教室不足」解消のため抜本的な支援学校の整備を 大障教課別交渉（支援教育課・施設財務課・保健体育課）

表面よりつづき

四條畷校分会
門田さん四條畷校分会から
は、「本

が示されたが十分な学習環境
が保障されるのか、また工事
の安全性の確保、通学区域割
りや校舎整備には現場の教職員
はじめ関係者の意見を充分聞
くことを求めました。また、
センターグループ給食のために新た
なアレルギー対応において十分
に対応できない現状を訴え、改
善を求めました。

守口支援学校分会からは、児
童生徒の急増により不足して
いるながらも、自分をコントロー
ルする力を持ち始めることについ
て話されました。

守口支援学校分会からは、児
童生徒がさらに増え、教室
確保や安全確保など、教職員
の負担が増大していること、
門真市在住の子どもは高等部
から寝屋川支援に転学となり
負担があること、「設置基準
不適合」を解消するため早急
な方策の具体化と北河内地域
にさらなる新校整備を求めま
した。

支援教育課は、「喫緊の課
題と認識している。知的障が
いのある児童生徒の増加への
対応については、『特別支援
学校設置基準』の不適合や教
室不足の解消をめざし、現在
の新校整備計画に加え、適否
の検討を進めています。また、四條畷市の給食
センターに要望を伝えていき
たい」と述べました。施設財
務課は、「八尾支援はじめ、
支援学校の老朽化は非常に深
刻な問題と認識している。要
望を聞いて対応していきたい」と
と回答しました。寝屋川支援
の給食調理室について、保健
体育課は、「学校の教育活動
に支障がないよう施設・設備
の改修に努める」と回答しま
した。

八尾支援分会
岩崎さん

最後に30分ほど感想や悩
み出し合つて交流しました。

に語り合えるような取り組み
を企画していきます。

最後に30分ほど感想や悩
み出し合つて交流しました。

に語り合えるような取り組み
を企画していきます。